思いがつながる、地域福祉情報誌

おおた社協だより



大田区社協
イメージキャラクター
あいちゃん

No.109
2026 Autumn October



第1回Bカフェ　絆サポーター・ご近所サポーター交流会に参加の皆さま
2026/6/17

編集・発行 社会福祉法人 大田区社会福祉協議会
〒144-0051　東京都大田区西蒲田7-49-2
☎ 03-3736-2021　FAX 03-3736-2030
https://www.ota-shakyo.jp
https://x.com/ota_shakyo
大田区社協　検索

特集

場所や資源をきっかけに つながる未来へのバトン



つながりはすぐそばに



地域貢献型自動販売機を
設置しています



ドローンと場所で
地域に協力しています



資源を活用したボランティアに
参加しています



大田区社会福祉協議会は「みんなでつくる　共につながりあう　まち」の実現に向けて、
地域の皆さまと力を合わせて大田区の地域福祉を推進する団体です。

場所や資源をきっかけに つながる未来へのバトン

【おおた社協だより109号】の感想をぜひお寄せください!
受付期間:令和8年10月末まで
感想はこちらから▲



Q1 きっかけ
Q2 やりがい、モチベーション
Q3 思いのバトンが渡せた、つながったと思った瞬間は?
Q4 未来へのバトンを一言

大田区社協は思いをつなげるお手伝いをしています!

つながるバトン ①地域貢献型自動販売機を設置しています

※売上の一部は、大田区社協が行う地域福祉推進事業に活用させていただきます。



小島 知広(こじま ともひろ)さん
【安詳寺住職】
(久が原)

A1 もともと電話ボックスを置いていた場所の活用を考えるなかで、大田区社協の地域貢献型自動販売機を知りました。ちょうど収まる場所であったことと、社会貢献になることが魅力だと感じたため、設置しました。

A2 常に明かりが点いているから防犯にもつながっていると思います。
この辺りはひと休みできる場所が近くないので、たまにジュースを買って境内でほっとひと息ついていらっしゃる方を見ると、社会の役に立っているなと感じます。



▲あいちゃんが目印です!

A3 夏は熱中症にならないように、地域貢献型自動販売機で買った飲み物で、体を冷やしてもらえると嬉しいです。
この周辺は住宅街で、幼稚園や保育園も近くにあるので、親子が立ち寄って「あれ買って!」という会話を聞くと、安心します。

A4 地域が明るくなる、ほっとひと息できる、設置する側も購入する側も社会貢献できる、まさに**「一石三島」**です!





日蓮宗キャラクターこぞうくん▲



▲安詳寺の外観

一石三島
9月1日から新しく萩中文化センターにも設置されました!
つながるバトン



現在、大田区内の地域貢献型自動販売機は13台に増え、1㎡から始められる地域貢献が広がっています!

▲詳しくはこちらから

つながるバトン ②ドローンと場所で地域に協力しています



渡邉 浩昭(わたなべ ひろあき)さん
【池上自動車教習所 参事】
(大森南)

A1 「地域とつながることが大事!」「会社だから地域に貢献するのは当たり前」という熱い思いを、教習所の持っている力を有効活用して、地域から親しまれる存在になろうと思い、様々な方々とつながり続けてきました。

A2 「見返りを求めたらいけない」と思いつつも、地域のお祭りに出たときに、住民の方から「この前はありがとう」と言われ、覚えていてもらえるんだと思い嬉しかったです。



▲ドローンの操作体験の様子



▲教習所の会議室を貸し出し、地域の方たちが集まる講座が開催されています

A3 一度切れたつながりを取り戻すのは大変。取組を担当されていた方がいなくなっても終わらないように、コミュニケーションを工夫しています。
つながりを終わらせたくないからこそ、様々な方々と取り組み続けることを意識しています。

A4 **「継続は力なり!」**



▲地域のイベントでドローンスクールを開催しました



◀「おおたの未来づくり授業」(大森第四小学校)への協力の様子

継続は力なり
つながるバトン



地域のお祭りに参加し、ドローン操作体験を開催!
皆様の笑顔につながっています!



つながるバトン ③資源を活用したボランティアに参加しています



石井 千秋(いしい ちあき)さん
【個人ボランティア】

A1 もともといくつかのボランティアに参加していました。当時はぼんやりと参加していたというか。ボランティアに対する意識が変わったのは、大きな病気をしてからです。リハビリを兼ねながらできそうなことが切手整理ボランティアでした。

A2 とにかく病気を治そう、元気な姿を家族やお世話になった方にみせようと思って参加しているうちに、病気がよくなりました。はじめて参加したゴミ拾いのボランティアや住民懇談会でも新たなつながりがどんどん広がって、いまはそれが生きる楽しみです。



新聞紙やチラシがカラフルなエコバッグに変身!▼

(会場:大田区社協)



▲切手整理ボランティア活動中

A3 実は‥バトンを渡せた、と思ったことがないというか、活動すると次から次へとつながりが広がり続け、そのなかで自分が元気になっていく、想いが循環していくと感じています。

A4 私にとってボランティアは楽しいからやる、また行きたいから行くという自己完結です。楽しくてやったことが、たとえばエコバッグのように、誰かが(完成を)楽しみにしてくれている、このような**「想いの循環」**を体験して欲しいです。





▲こども食堂「うのきのこ」では好きなお菓子を新聞紙エコバッグに入れて持ち帰りました▶

想いの循環
つながるバトン

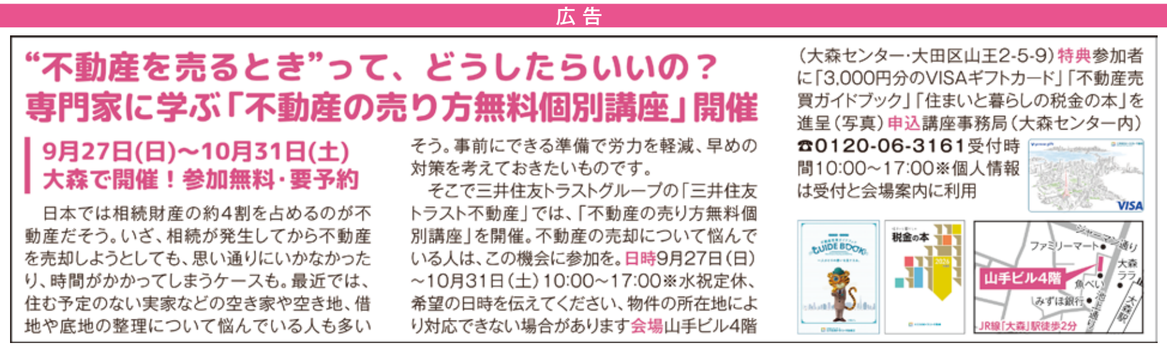
完成後の新聞紙エコバッグはこども食堂にお渡ししています。次の完成を楽しみにしてくれています!



広告







広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属し、当会が推奨するものではありません。

地域のつながる人図鑑



障害があってもなくても、当たり前の社会を

大田区精神障害者家族連絡会（つばさ会）代表:川﨑 洋子さん



▲川﨑 洋子さん

川﨑さんが精神障がいのある人やその家族を支える活動を始めたきっかけは、息子さんの入院でした。入院先の医療相談員の紹介で大田区内の家族会に参加。その後、平成14年から家族会と大田区社協が共催する『精神障がい者家族等電話相談～家族による家族のための電話相談～』に相談員として携わっています。

精神障がいのある人やその家族は親戚にも相談できず、ひっそりと暮らしている人も少なくありません。電話相談には「福祉制度」や「家族会」など、どこにもつながっていない人からの相談も寄せられます。誰にも言えずに抱えている思いを安心して話せる場として、多くの家族を支えています。

また、川﨑さんは「実際に当事者を見て、接して、知ってもらうことが大切」と考え、家族会の仲間と地域の居場所『コミュニティスペースにしかまた』を立ち上げました。

現在も家族会の開催や電話相談を続けるほか、大田区地域福祉活動計画の推進委員、地域の居場所の運営など、大田区社協とともに地域福祉を支えています。

「これからも人と人とのつながりを大切にしながら、障がいの有無にかかわらず、誰もが自分らしく暮らせる地域をつくりたい」という川﨑さんの言葉からは、穏やかな中にもゆるぎない思いが伝わってきます。

次回は
おおた地域共生
ボランティアセンター
「つながる人図鑑」です！



大田区社会福祉協議会 2拠点体制についてのお知らせ

令和8年12月14日（月）から、大田区社会福祉協議会は2拠点になります。
ご用件によって事務所が異なりますのでご注意ください。
なお、電話番号の変更はありません。

▲詳しくはこちらから

大田区社会福祉協議会

所在地 大田区西蒲田7-11-1
蒲田西地域力推進センター
（大田合同庁舎内）

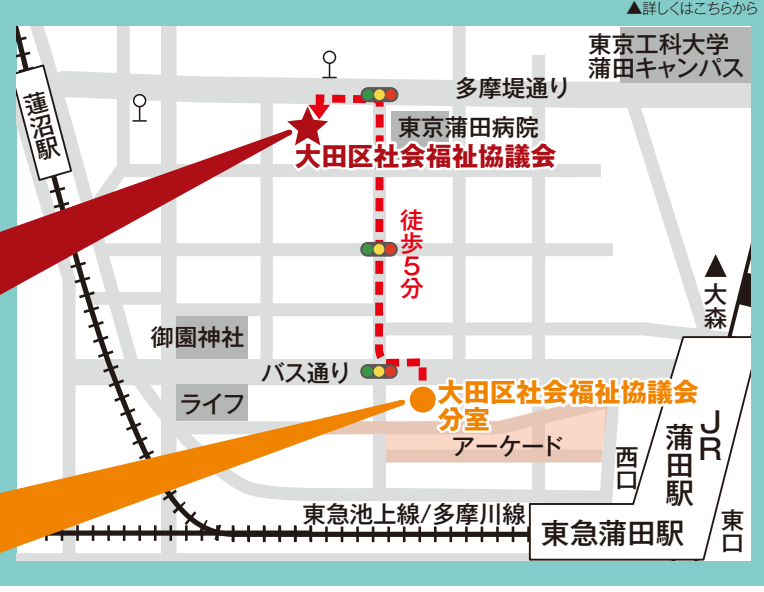
4階
- 庶務･計画担当
- 地域共生担当
- ボランティア担当
- いきいきしごとステーション

3階
- 生活相談担当
- 特例貸付担当

大田区社会福祉協議会 分室

所在地 大田区西蒲田7-49-2
大田区社会福祉センター
（大田区･山口共同ビル内）

5階
- おおた成年後見センター
- 要介護認定調査担当



赤い羽根共同募金へのご協力をお願いいたします



赤い羽根共同募金運動では、毎年10月に自治会･町会、関係団体等に募金活動にご協力いただいております。たくさんの皆さまのあたたかいお力添えをお願いいたします。

集められた募金総額の最大65%が、翌年度に地域配分として大田区内の福祉施設･団体に配分され、残りは全都的な配分等に役立てられます。

令和7年度は大田区内の50の施設･団体に配分されました。

昨年度の募金実績 29,925,896円

大田区内での募金の活用例

季節ごとの行事費用として使用させていただきました。普段はできない親子参加での行事を開催することができ、子どもたちの笑顔も輝いていました。



放課後等デイサービス（季節体験交流事業）

新しいおさんぽ車はスムーズに進むことができ、軽くて操作も楽になりました。日よけもあるので、おさんぽ車の上で子どもたちは快適に過ごしています。



保育所（おさんぽ車購入）

問合先 庶務･計画担当 TEL:03-3736-2021
（大田区協力会事務局）

詳しくはこちらから▶

おおた広がれボランティアのつどい2026

手話通訳あり

みんなが主役☆地域の輪

見て･聞いて･やってみるボランティア×福祉学習

福祉学習は、特別な人のための勉強ではなく、「ふだんのくらしのしあわせ」をみんなで考え、行動するための学びです。子どもも大人も一緒に学び、気づき、ボランティアなどの小さな一歩を重ねていくことで、「おたがいさま」と言い合える安心のまちを育てていきませんか。



日 時 10月24日（土）13時30分～16時30分
会 場 大田区民ホール･アプリコ 地下1階展示室
（大田区蒲田5-37-3）
内 容 ①基調講演
地域における「ボランティア」と「福祉学習」の必要性
～まちを良くするチカラを学ぶ～
講師 佐甲 学 氏
（中部学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授）
②ボランティア団体･こども食堂等の活動紹介&疑似体験
③交流会
申込方法 10月19日（月）まで
GoogleフォームかFAX
問合先 ボランティア担当
TEL:03-3736-5555
FAX:03-3736-5590

▲申込みフォーム

あたたかいご寄附をありがとうございました



令和8年6月1日～令和8年7月31日

お名前（順不同・敬称略）	金額（円）
塩川 悦男	20,000
株式会社伊藤園東京大田支店	13,754
ダイドードリンコ株式会社	3,128
成友興業株式会社	3,193
ダイドーアサヒベンディング株式会社（鵬図商事㈱設置自販機手数料分）	4,770
田熊 芙佐子	50,000
宮澤 勇	3,000
氏家 久美子	30,000
三和電業株式会社	120,000
匿名 1件	10,000

広告





広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属し、当会が推奨するものではありません。

大田区社会福祉協議会 会長コラム

立て続けに地震や大雨が日本を襲いました。

被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

今年も10月から「赤い羽根共同募金」が始まります。

昭和22年の創設以来、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりを支えてきた本募金は、令和8年度には80回目という大きな節目を迎えます。

これほどの長い歩みを支えてくださった自治会･町会、関係団体の皆さまに心より感謝申し上げます。

「身近な地域の福祉活動を応援する取組み」として、地域共生社会の実現に向け、今年度も温かいご協力とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

中島 寿美